

モアプレーン 施工の手引き

適用品番

ジョリパットインフィニティー∞ JQ-500シリーズ

【初版】令和元年 6月

【改訂】令和3年 11月

アイカ工業株式会社

化成品カンパニー

福島 R&D センター第二グループ

<使用材料>

材 料	商 品 名	概 要	荷 姿	標準施工面積
シーラー	ジョリパットシーラー JS-410	1 液溶剤系 アクリルゴム系シーラー	15kg/缶	約 75~100 m ²
	セーフシーラー JS-800	1 液水系カチオンシーラー	16kg/缶	約 80~106 m ²
主 材	ジョリパットインフィニティ∞ JQ-500 シーズ 標準色 JQ-500T□□□□ (□…数字) 特注色 JQ-500△○○○ (△…英字、○…数字)	アクリル共重合樹脂 水性仕上げ塗材	20kg/ ヘル缶	約 5.3 m ² /缶
骨 材	JF-1 JF-3 JF-5 JF-7	寒水石 (白竜) 1 厘 寒水石 (白竜) 3 厘 寒水石 (白竜) 5 厘 寒水石 (白竜) 7 厘	(20kg袋入 約 4.5 m ²) (20kg袋入 約 3.3 m ²) (20kg袋入 約 5.1 m ²) (20kg袋入 約 2.6 m ²)	

※セーフシーラー JS-800 は 2kg×2 個セットもございます。使用する面積によってはこちらをご使用いただくことを推奨致します。(施工面積目安：約 20~25 m²/セット)

※使用する下地に適合したシーラーをご使用ください。詳しくは各シーラーの説明書または最寄のアイカ工業(株)各支店にお問い合わせください。

<主な施工道具>

- ・ 金ゴテ
- ・ スチロールゴテ (スタイルフォームのような発泡スチロール製、もしくは木製ゴテでも可)
- ・ 仕上げゴテ (ステンレス製の腰の柔らかいもの)

<下地調整>

モルタル金ゴテ押さえ (平滑) 等

<注意事項>

本仕上げは完全にフラットに仕上げることはできません。

特に大面積での施工の場合、弊社見本板と仕上がりに差異が生じる可能性がありますので、事前に実際の作業者がコンパネ等で試し塗りを行い、仕上がりを施主等に確認いただいてから、本施工を行ってください。

また、作業人工に応じて、化粧目地での分割等を検討してください。

<モアプレーン施工方法>

1. シーラー塗布

1 JS-410 の場合

配 合	JS-410	15kg
塗 布 量	0.15~0.2kg/m ²	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

1' JS-800 の場合

配 合	JS-800	16kg
塗 布 量	0.15~0.2kg/m ²	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

※下地、主材に応じた最適なシーラーを選定してください。
3時間以上48時間以内

2. 主材 下塗り

・JQ-500を無希釈で1.0kg/m²となるよう
金ゴテにて平滑に塗布する。

夏期 4時間以上
冬期 12時間以上
乾燥を確認後、次工程に移ってください。

3. 主材 中塗り

配 合	JQ-500シリーズ	20kg
	JF-3	4kg
	JF-5	4kg
	JF-7	8kg
	清 水	0.5-1.0kg
塗 布 量	約3.5kg/m ²	
施工道具	金ゴテ 金ゴテにて平滑に材料を配る。	

追いかけ（5分以内）

- ・ スチロールゴテまたは木ゴテを円状に動かし、塗付厚を均一にする。(図-1 参照)
- ・ その後、仕上げゴテを円状に動かし、平滑に押さえる。(図-2 参照)
凸部が多く残っていると、仕上がり不良(フラットになりにくい、コテ跡が目立つ等)につながります。
- ・ 使用したコテに付着したジョリパットは、濡れウエスやブラシなどで洗い、常にきれいに保つ。

夏期 12時間以上
冬期 18時間以上
乾燥を確認後、次工程に移ってください。

4. 主材 上塗り

配 合	JQ-500シ-ズ	20kg
	JF-1	10kg
	JF-3	5kg
	清 水	2.0-2.5kg
塗布量	約1.5kg/m ²	
施工道具	金ゴテ	

金ゴテにて、中塗りの凹部にすり込むように塗り付け、平滑に材料を配る。
薄塗りのため、塗材の乾燥が比較的速いので塗り継ぎに注意してください。

追いかけ (5分以内)

5. 押さえ (仕上げ)

- ・ 仕上げゴテを円状に動かし、平滑に押さえる。(図-2 参照)

<施工のポイント>

3. 主材 中塗り工程

- ・ 金ゴテで平滑に材料を配った後、追いかけてスチロールゴテまたは木ゴテを円状にランダムに動かし、全体的に塗付厚が均一になるようにならしてください。(図-1)

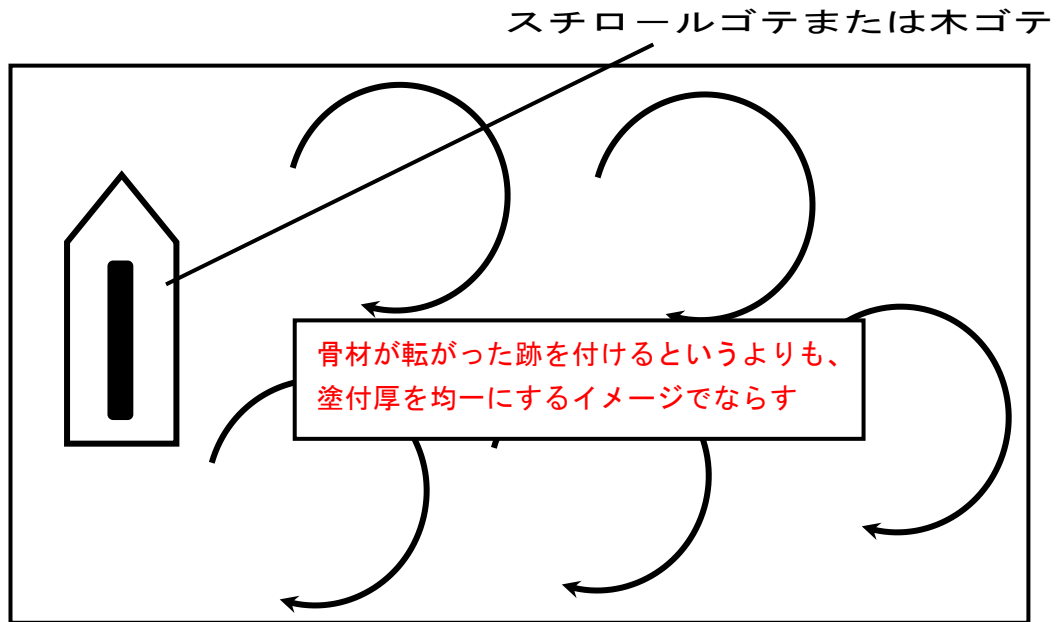


図-1

- ・ 仕上げゴテ（波消しコテ）を円状に動かし、凸部を平滑になるよう押さえてください。(図-2)
- ・ 凸部が残っていると、仕上がり不良（フラットに仕上がらない、コテ跡が目立つ等）につながります。

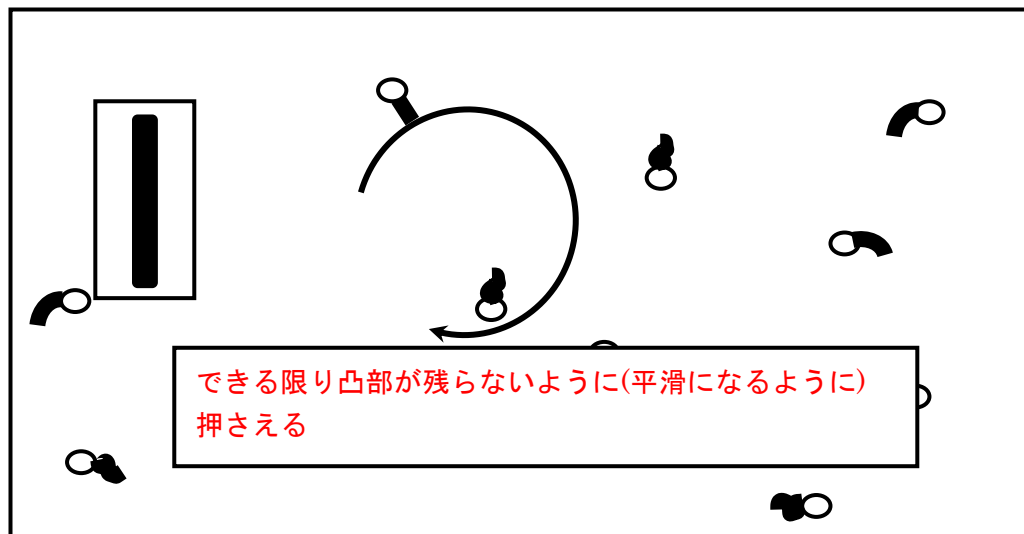


図-2

4. 主材 上塗り工程

- ・ 上塗りは中塗りの凹部に塗材をすり込むように塗り付け、追いかけて仕上げゴテ(波消しコテ)を円状に動かし、平滑になるように押さえてください。
ただし、薄塗りのため塗材の乾燥が比較的速い工程となりますので、塗り継ぎには注意してください。
- ・ 色調(濃色等)によっては、最終工程のコテ押さえの跡が目立つことがあります。事前に施主等に仕上がりを確認いただき、承認いただいた上で、施工を進めてください。

＜施工の注意事項＞

- ・ 施工場所の気温が5℃未満、湿度85%以上の場合、施工を行わないでください。やむを得ず施工する場合は、採暖などの養生を行い、気温5℃以上、湿度85%未満としてください。
- ・ 施工前に必ずコンパネ等で試し塗りを行い、仕上がり、乾燥性を確認してください。また、事前に見本板でも仕上がり等の確認を行ってください。
- ・ 乾燥が比較的速いため、塗り継ぎ時間に注意してください。
(特に外装の大面积を施工する場合は、作業人工や化粧目地による分割を検討してください。)
- ・ 配り塗りは、均一に塗布してください。塗布量が少ないとパターンがでません。
- ・ 塗板見本及び現場施工時のパターンの状態を、施主等の責任者の承認をいただいた上で施工を進めてください。
- ・ 施工の際は臭気等のトラブルを防ぐため、事前に近隣への案内等に配慮してください。
- ・ シーラー、溶剤、洗浄剤等で有機溶剤が含まれる場合は、特に防毒マスクを着用してください。また、必要に応じて保護メガネ、保護手袋を着用ください。
- ・ 器具を洗浄した水を河川、側溝への放流は避けてください。
- ・ 気温5℃未満、湿度85%以上、降雨、結露、強風などの条件下での施工は、硬化不良、ひび割れ、ふくれなどの不具合が発生する可能性があります。
- ・ 商品ならびに施工に関するお問い合わせは最寄の当社支店までお願い致します。
- ・ 施工する際は下地表面に結露(濡れ)が無い事を確認した上で施工してください。

完全にコテムラなくフラットに仕上げることはできません

以 上